

成人

七百三十五人が新たな

門出を迎えた。

成人の誓



小宮文彦さん

祝福の光、溢れる感動の中過去の自分にピリオドをうち大人になる事の重大さを痛感しながら、私達は今日ここに成人を迎えます。

この世の人として生れ、人として歩んできた、道のりをふりかえりつつ、来たるべき二十一世紀に向けて新たな第一歩を踏み出そうとしています。

私達をとりまく社会に目を向けて見ますと、そこには様々な問題が提起されています。高齢化社会、円高不況、飢餓と飽食、最近見直しを必要とされている教育問題等、これらに對して、私達は無関心を装ってよいものでしょうか。

特に高齢化社会については、私達若者が、真剣に考えていかなければならない問題であります。老人に對して、温かい思いやり、やさしい心で接していくことが、もつとも大切な事だと思えます。いつの時代であつても、若者が社会を支えていかなければならないこと、又先人の築き上げてきた、優れた文化を引き継ぎ、平和で幸福な社会づくりのために、一人ひとりが全精力を注いで努力していかなければなりません。

最近、「新人類」などという流行語が使われ、若者の無責任で、勝手気ままな行動が指摘されています。私達は、今まで生きてきた、二十年の間に、幾多の失敗を繰り返しながら、幾多の重さを痛感してきています。社会に對する責任又、自分に対する責任を改めて認識し、私達に任せられた責務は、何かを考えていかなければなりません。



山本美香さん

二十歳に思う

人生八十年代といわれる現在、今日迎えた二十歳は、その四分の一にあたる。「まだ四分の三もあるではないか、あくせくすることはないか」と樂觀している。

しかし、屋久杉は三千年の年輪を経て、初めてその木目の美しさや柔かさが、杉としての価値を持ち、二千年に満たぬものは、単なる木にすぎ

今まで私達を温かく見守りはぐくんで下さった、多くの方々の慈愛と教えを忘れることなく、今後諸先輩方のご指導の下、多くの事を学び強靱な身体と柔軟な頭脳を培い、輝かしい二十一世紀に向けて、社会のニーズに適切に答え、地域社会の発展に貢献する決意であります。

最後に、私達のためにこのような盛大な式典を催して下さいました関係者各位に、心からお礼申し上げると共に尚一層努力する事をここにお願い致します。

矢島照水(照子)

中央1-8-14

書道家として歩む



書道と絵は、子供の頃から独学で学んでいた。書道は学生時代に師範の免状を取得。結婚後は暇があれば筆をとる程度だった。

体をこわし、仕事を離れてから書道に専念した。書展入

ないと聞く。このような自然界の気の遠くなるように長い年月にくらべて、人の生きる時間はなんと短いことだろう。今までの私は、あたたかく見守ってくれる人々の中で成長し、なんとなく勉強してきたように思う。だがこのように、ごく小さな世界に満足してはいけなかったのではないだろうか。これからは、自分自身をゆり動かすような体験を通して、できるだけ多くの人に会い、私は私の目で社会

をみつめ、高齢化社会が私達に与える不安は、なにか、何故さまざまな差別があるのか、どうして環境は汚染されていくのか等々、その根源や仕組みを学ぶことが必要であろう。そして、若い発想を生かし、なんらかの意味で社会に参加していかなくてはならないと思う。

「人生は今の積み重ね。」元旦の朝開いた暦の格言である。これからの人生のプロセスを大切にしていきたいと思う。

選をきつかけにますます熱が入り、サンケイ国際書展に入選するなど、今では書道家としての人生を歩んでいる。

「これこそ生涯を貫く仕事」と心に決めた時、筆を持つこととの重大さに気が付いたという。「わかりやすく、読みやすい美しい字」これが矢島さんの書に對する哲学である。筆を持つまでは、辞書でその文字の意味を入念に調べる。全文の大意を把握してから、自分自身の文字を頭の中で組み立てる。心を無にし、一気に筆を送る。短時間ではあるが、その集中力はピークに達するという。

照子として歩んだ人生、これからは照水として歩む。